

『在宅医療啓発のためのフォーラム2018in美馬東部』を開催しました

日時:10月28日(日) 午後1時30分から3時30分

場所:美馬市農村環境改善センター1階 大ホール

今回のテーマは「人生のハッピーエンドを迎えるために～もしものときの医療について～」と題して、医療法人昭和の杜 木下ファミリークリニック(徳島市) 木下英孝先生にご講演をいただきました。参加者はスタッフも入れて149名でした(3年間のフォーラムで一番多く集まりました)



主催者挨拶
美馬市医師会 会長
谷口 博美



ご来賓挨拶
美馬市長
藤田 元治 様



ご来賓挨拶
美馬保健所長
佐藤 純子 様



第1部

「終活」って？

- ◆人生の終焉に向けての(準備)活動
 - ◆人生のエンディングを考えることで、自分を見つめ、今をよりよく生きるための活動
 - ◆死を考えることにより、生きることを考える
人生のハッピーエンディングを目指そう!
- 「尊厳とは・・・」
- ◆尊厳とは、「尊く、厳かで、冒しがたいこと」
 - 自尊心、誇り、プライド
 - その人らしさ
 - その人の思い、本人の意思、自己決定
 - ◆尊厳を守る、尊厳を保つ
 - その人の思いにそうごと
 - 自己決定を守る
 - ◆尊厳を損なう、尊厳を傷つける
 - その人の思いに反すること



司会:美馬市医師会副会長 木下雅俊

「広報みまTV」から取材にきてくれました。後日放映されます。



1～18班のグループでグループワークをしました。

第2部
寸劇・意見交換

第1幕

救急要請があり、現場についたら心肺停止状態。家族から「本人は「蘇生措置を望んでいなかった」と告げられたら

→救急隊はどうしますか？



第2幕

早朝ウォーキング中に夫が倒れた。妻は救急車を呼んだが通りがかった通行人がAEDをもってきてくれた。妻は、夫が常日頃延命治療は希望していないといていたのを思い出して断った。

→このような時どうしますか？
→突然の病気や事故で、重篤な状態になって「回復の可能性」が判断できない時点では救命の治療を。



第3幕

75歳、男性、脳出血による意識障害。本人は「延命治療は希望しない」との事前指示。担当医は「回復の可能性はわからない」長男は「できるだけのことをしてほしい」事前指示書の代理人は「次男の二郎」
→さて、どうしますか



木下先生のシナリオに沿って、寸劇のキャストは「美馬市医師会多職種連携会議委員」です。ぶっつけ本番でした……。

グループワークの班長は、多職種連携会議委員が担当し、進行と発表をしました。



「助言者」4名の皆様からコメントをいただきました。



●75歳、男性、脳出血による意識障害
●呼吸状態が悪化して、気管内挿管・人工呼吸器が必要になる状態
●本人は「延命治療は希望しない」との事前指示
●担当医は「回復の可能性は分らない」
●長男は「できるだけのことをして欲しい」
●指示書の代理人は「次男の二郎」
●この内挿管・人工呼吸器をどうすべきか？